

100年歌い継がれた 関西大学学歌のゆらぎについて

篠塚 義弘

1 はじめに

2022年は、関西大学にとって大学昇格100年、千里山キャンパス開設100年を迎える年である。

そしてもう一つ、100年を迎えるものがある。それは、学歌『自然の秀麗』である。

大学昇格時の中心人物であった山岡順太郎総理事は、大学昇格を期に従来の校歌から新しい時代にふさわしい学歌を求めた。そこで、服部嘉香文学部教授に作詞を、山田耕筈に作曲を依頼して、学歌が1922年9月に誕生したのである。

筆者は、5年前から博物館事務室に席を置き、ゼンマイ駆動の蓄音機とSPレコードなどのメディアを担当してきた。そして、4月の関西大学校友会主催のスプリング・フェスティバルなどで蓄音機を用いて1931（昭和6）年制作の関西大学学歌のSPレコードを披露・演奏してきた。その中で、1924（大正13）年制作の山田耕筈自らが吹き込んだ学歌音源や現在の学歌音源など複数の時代の音源に微妙に違い（ゆらぎ）があることに気付いた。今回、年史編纂室に保管されている過去の学歌ソノシートやレコード

を調査する機会を得たので、10種類の学歌音源と付属の歌詞カードについてのゆらぎを一覧表にした（表1）。学歌に時代によるゆらぎがあることは、石田健一が「学園歌の沿革と現状をみる－その正しい継承と高揚を願って－」『関西大学年史紀要』第18号（2009（平成21）年3月）で指摘している。石田の指摘をベースに、音源に関して1）歌詞、2）速度（テンポ）、3）音程の3項目について述べる。

2 学歌の変遷

2-1 歌詞について

10種類の音源と付属の歌詞カードを比較して、過去に3度の変化があったことが分かった。学歌の歌詞は、完成するまでに何度も推敲を重ねている。主な経緯を述べる。山岡総理事ら大学首脳陣は、歌詞を依頼した服部嘉香に「真理の討究」と「人格の陶冶」を二本立てとし、「学問の実際化」「自由の訓練」「自治の發揮」の文言も盛り込みたいと要望していた。服部嘉香は歌詞の原案を作り、これを『千里山学報』第2

表1 学歌『自然の秀麗』のゆらぎ

No.	製作年	媒 体		歌 唱	歌 詞			速度（テンポ）		音 程
		録音媒体	媒体番号等		理想	実化	3 番 1 節	演奏時間	J = 換算	
①	1924(大正13)年	SPレコード	ニットー	山田耕筈	理想	じつげ	自由の尊重 自治の訓練	60秒	116	正
②	1931(昭和6)年	SPレコード 26510	コロムビア 41325	関西大学合唱団	理想	じつげ	－	60秒	116	正
③	1961(昭和36)年	ソノシート	太安堂印刷	関西大学	理想	じっか	音源) 自由の尊重 自治の訓練 歌詞) 自由の訓練 自治の發揮	64秒	109	高
④	1965(昭和40)年	ソノシート	ビクター WFS-8019	大阪放送合唱団	理想	じっか	自由の訓練 自治の發揮	56秒	124	高
⑤	1969(昭和44)年	LPレコード 44-33	テイチク OM-789W	関西大学文化会 グリークラブ	理想	じっか	自由の訓練 自治の發揮	60秒	116	高
⑥	－	LPレコード 47-32	テイチク OS-1325W	関西大学文化会 グリークラブ	理想	じつげ	自由の尊重 自治の訓練	61秒	114	高
⑦	1976(昭和51)年	カセットテープ	－	山本禎二 岩城拓也 他	理想を	じつげ	自由の尊重 自治の訓練	64秒	109	高
⑧	2006(平成18)年	CD 「關大」縮刷版	－	－	理想	じつげ	自由の尊重 自治の訓練	77秒	90	高
⑨	2008(平成20)年	CD	－	－	理想	じつげ	自由の尊重 自治の訓練	62秒	112	高
⑩	2016(平成28)年	Web	－	－	理想	じつげ	自由の尊重 自治の訓練	62秒	112	高

号（1922（大正11）年7月）に掲載して広く意見を求めた。その上で、山岡順太郎総理事、宮島綱男専務理事と服部嘉香の3人で歌詞の推敲を重ね、山田耕筈に作曲を依頼した。山田耕筈は、3番の歌詞を「自学の修練 自治の発揮」から「自由の尊重 自治の訓練」に読み替え、「実化」を「じつげ」と歌うように求めて、現在の学歌が確定した。山田耕筈の歌唱指導については、ここでは割愛するが、『千里山学報』第8号（1923（大正12）年4月）に掲載されている。

1) 「燦^{さん}たる理想（を）」

これは歌詞と楽譜の音符との対応に起因するゆらぎである。⑦の楽譜と歌詞カードのみ「燦たる理想^{さん}を」と表記されていた。現在は、音声として長音「ー」とするか「う」または「(お)」を音符に当てるようになっている。他に『七十年史』でも「燦たる理想^{さん}を」と表記されている。

2) 「学の実化」の読み

作曲家の山田耕筈の意向で、「実化」を「じつげ」と歌うが、日常的には普通名詞として「じっか」と発音する。山岡総理事の女婿にあたる岸田幸雄から「義父はジッカと言っていました」との聞き書きも残っている。実際の音源では、③、④、⑤が「じっか」と歌っている。

3) 3番の歌詞

山岡総理事は学歌の揮毫を残している。揮毫3番の歌詞は、山田耕筈が変更する前の服部嘉香オリジナルの「自学の修練 自治の発揮」でなく、「自由の訓練 自治の発揮」である。③、④、⑤の歌詞カードは山岡総理事の揮毫と同じであった。ただし、③の音源は山田耕筈の指導通り「自由の尊重 自治の訓練」で歌っている。

2-2 速度（テンポ）について

作曲者の山田耕筈は、自筆の楽譜の冒頭に「Tempo di Marcia（マーチのような速さで）moito energico ben marcato（非常に力強く明瞭に）」と記している。これは、学歌を応援歌や行進曲としても使えるようにとの思いがあったからである。「マーチのような速さ」とは非常に曖昧な表現である。学歌の楽譜は29小節、4分音符換算116個で構成されているので、60秒間で1番を歌えば、速度表現は♩=116となる。そこで10種類の音源を実測し、その歌唱の演奏時間と四分音符換算の数値を一覧表に示し

た。数値が少ない方がゆっくりしたテンポである。昭和の後半の1976（昭和51）年から2006（平成18）年にかけて、特に創立120周年直前には、⑧のようにゆっくりしたテンポであったが、創立120周年以降の2008年では⑨のようにほぼ元に戻ったことが分かった。

2-3 音程について

現在1ヶ所、山田耕筈の楽譜とは異なる音程が温存されている。1番の歌詞では「若き心にたたえなん」の「え」の四分音符の音階が直前の長音「ー」と同じ音階に一音高くなっている。石田の「学園歌の沿革と現状をみる（続編）」（『関西大学年史紀要』第19号、2010（平成22）年3月）によると、山田耕筈の原曲は長音「ー」より一音下げることによって微妙な抑揚を与えているが、同じ音階で歌うことにより単調になっている。そして、この誤りは、1952（昭和27）年の『関西大学学報』付録が発端のようである。なお、現行の方が歌い易い音程であるため、現在でも慣用されていると推測される。



図1 音程の誤り「え」

3 おわりに

関西大学では、学歌を含めた正しい学園歌の普及を願って、教育後援会の協力を得て、記録媒体を作製して新入生などに配布してきた。記録媒体は、ソノシート、LPレコード、カセットテープ、CDと時代とともに変化してきたが、普及に対する関係者の熱意には感謝と敬意を表したい。100年間歌い継がれてきた歴史ある学歌は、途中で何度かの変遷はあったものの、ほぼ原型のまま伝わっていることに改めて気付かされた。今回の比較には含まなかったが、関西大学内では凜風館カリヨンの毎日午前9時の時報や学内電話交換機の保留音など、身近なところで学歌メロディが使われている。私達は、知らず知らずの内に『自然の秀麗』を体感しているのである。